

さいとう元彦の約束

ひょうごを前に進めよう！

5つのビジョン+プラスワン

Vision1

コロナ禍『ひょうご4つのゼロ』の実現！
人生100年時代の健やかライフをさらに進めます。

Vision2

明るく、楽しく、幸せな子育て！
未来を創る人づくりをさらに進めます。

Vision3

県内GDP成長率 全国トップクラスの実現！
新時代の産業、農林水産、観光の活性化をさらに進めます。

Vision4

住んでよかった満足度 全国トップクラスの実現！
みんなが誇れる郷土づくりをさらに進めます。

Vision5

防災先進県・兵庫であり続ける！
災害に強い県土づくりをさらに進めます。



Plus1

県民とのコミュニケーション力、情報発信力 全国トップクラスの実現！
行財政改革を県民とともに進めます。

令和3年6月10日

新時代への船出 県民の皆さまとともに

令和に入って3年。新しい時代を歩み始めた矢先に、私たちの社会を新型コロナウイルスのパンデミックが襲いました。日々の景色は一変しました。すでに1千人を超える県民の方々が犠牲になり、数多くの皆さまが厳しい生活を余儀なくされています。

「コロナから命を守る」。何にもまして最優先の課題です。ワクチン接種をもっとスピードアップする。変異株の監視体制をもっと強くする。コロナ病床をもっと確保する。全力で進めます。

「コロナから生活を守る」。同様に最大限の力を注ぎます。県民の皆さまと意見を交わす中で、深刻なお声をいくつも受け止めました。仕事が減り生活を切り詰める女性。外出自粛の中で孤立する高齢者。就職に不安を募らせる大学生。事業継続の見通しを立てられない経営者。一日も早く生活や事業の安定を取り戻せるよう、皆さまに寄り添ったきめ細かな取組を急ぎます。

その上で、「コロナからの創造的復興」です。これからの兵庫を単にコロナ前の状態に戻すのではなく、よりよい社会にする。もっと元気で、もっと安心な兵庫にしていきたい。そのためには、従来の延長線上の県政では限界があります。新しい発想や手法、激しい変化に対応する柔軟性、そして課題に立ち向かう行動力が必要です。これまでのキャリアを通して私の培ってきた力を注ぎ、「躍動の県政」を実現します。

その際、とりわけ大切にしたいのが、「誰も置き去りにしない」というSDGs(国連の持続可能な開発目標)の理念です。効率性偏重の社会は私がめざす姿ではありません。誰もがやりがいのある仕事や出番がある。生涯安心して暮らせる環境が整う。中小企業や地場産業、農林水産業が地域の誇りとなっている。多自然地域も都市部もともに個性を活かして発展する。そんな兵庫をめざします。そのためにも、県民の皆さまの思いを出発点とする「県民ボトムアップ型県政」を進めます。

私とともに、ひょうごを前に進めましょう。

■1. コロナ禍『ひょうご4つのゼロ』の実現

人生100年時代の健やかライフをさらに進めます。

(1) コロナ禍の克服！ 感染拡大を防ぎ、被害を抑える施策を強力に進めます。

(2) 人生100年時代を健やかに！ 超高齢社会に対応した医療・福祉を充実します。

重症患者のケア、感染者の抑制、生活の維持など、コロナに苦しむ声を聞かない日はありません。

まず何よりも、私はコロナ対策に全力を注ぎます。コロナ被害ゼロを目指し、あらゆる手段をためらわずに実行していきます。そして高齢化が進んでも、生涯にわたって健やかに、安心して暮らせる兵庫をつくります。

(1) コロナ禍の克服！ 感染拡大を防ぎ、被害を抑える施策を強力に進めます。

- 次の4つのゼロをめざし、「ひょうご4つのゼロ作戦」を展開します。

1 ワクチン接種待機ゼロ

- ① すべての医療機関での接種を可能にします。
- ② 県施設なども活用し県独自の大規模接種の運用を拡大します。
- ③ 福祉施設職員や保育士、幼稚園教諭など、社会生活の維持に不可欠な
エッセンシャルワーカーへの優先接種を行います。
- ④ 接種可能な医療機関等がタイムリーに分かり、当日の仕事や買い物帰りなどでも接種できる仕組みの構築を促進します。

2 コロナ倒産・失業・生活困窮者ゼロ

- ① 県の制度融資の枠を拡大するとともに、返済猶予期間や返済期限の延長を検討します。
- ② 雇用調整助成金や緊急小口資金の大幅延長を国に強く働きかけます。
- ③ 民間人材派遣会社とも連携し再就職支援を強化します。
- ④ アクリル板設置、マスク着用など感染防止対策を徹底している飲食店や宿泊施設を県が認証し、認証店は時短要請や酒類提供の緩和等を行う「ひょうご安心認証(仮称)」を導入します。
- ⑤ コロナ収束前からの一步早い需要喚起策として、インターネット通販等への出展料支援等を実施します。

- ⑥ 感染が下火になった機を捉えて、飲食や観光など需要の落ち込んだ事業者の回復を支える大規模な消費拡大キャンペーンを展開します。

3 学生の孤立ゼロ

- ① 大学等と連携し、進学・就職や生活に悩む学生のワンストップ相談窓口、AI チャットボットを早急に構築します。
- ② 家計が急変した学生に対し、返済不要の県独自の奨学金(県内就職が要件)を創設します。
- ③ 民間人材派遣会社とも連携し、コロナ就職氷河期ゼロ対策を強力に推進します。

4 高齢者の孤立ゼロ

- ① 感染症対策の強化等による、コミュニティ活動やスポーツ活動に参加しやすい環境づくりを支援します。
 - ② 配食サービスなど民間サービスとも連携した新たな見守り支援を導入します。
 - ③ 在宅時間の増加に伴って特殊詐欺被害のリスクが高まっていることを踏まえ、使いやすい「自動録音電話機の普及大作戦」を展開します。
- 感染症病床を増床します。そのために、知事自ら現場の実情をしっかりと把握し、医療機関と連携して「コロナ病床確保計画」を定めます。また、医師・看護師など医療従事者の確保を進めます。
 - 新たに整備する「はりま姫路総合医療センター(仮称)」について、医療従事者の教育・育成の拠点性を高めます。
 - 民間の検査能力向上や最新機器の導入等により、PCR検査体制を強化します。
 - 保健所の体制を強化します。職員の増員をもっと機動的、大胆に行うほか、市町の消防署とも連携し入院調整や搬送業務の円滑化を図ります。
 - マスク、防護服、ゴム手袋、注射器、注射針など、医療資材を戦略物資と位置づけて県内企業による製造を支援します。
 - コロナ収束後に、今回の兵庫県の新型コロナ対応について検証します。行政による自己評価ではなく、専門家を入れた第三者機関により客観的な検証を行い、新たな健康危機管理体制の構築につなげます。

(2)人生 100 年時代を健やかに！ 超高齢社会に対応した医療・福祉を充実します。

- 団塊の世代がすべて後期高齢者となる 2025 年に向けて、地域完結型の医療体制を整備します。二次医療圏ごとの地域医療連携法人の設立検討など、地域の診療所・クリニックを含め**官民一体となって地域医療を支える体制づくり**を進めます。また、**在宅医療の充実、医療従事者の確保**を推進します。
- 官民連携による**最先端テクノロジー(ビッグデータ、フェイスID、スマートウォッチ等)**を活かした**新しい健康づくりや診療のシステム**を研究し、普及させます。
- 定期健診やがん検診の受診率向上、認知症検診の普及など、**早期発見・早期対応の取組を充実**します。
- 健康長寿のために不可欠な歯を大切に**する習慣を広げるため、「オーラルケア条例」を制定**します。
- **24 時間対応の在宅介護サービスの拡大、特別養護老人ホームの計画的な整備、自立支援型デイサービス等**により、**住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えます**。
- **介護人材の確保に向け、処遇改善や外国人材の活用など対策を強化**します。また、介護人材の負担軽減を図るため、介護ロボットの導入や ICT の活用等も進めます。

■2. 明るく、楽しく、幸せな子育て！

未来を創る人づくりをさらに進めます。

- (1)子育て安心県！ どこよりも子どもを産み、育てやすい県にします。
- (2)学びの充実！ 新しい時代に対応した学びの環境づくりを加速します。
- (3)子どもを守る！ すべての子どもを大切に育てる社会をつくれます。

「安心して子育てをしたい」「若者が集まるまちをつくりたい」「将来への不安を何とかしてほしい」

若い方たちと話し合う中で最も多くいただいた意見でした。少子化に歯止めをかけ、若者の県外流出を抑えるためにも、子育て支援や教育に一層力を入れます。子育てするなら兵庫県、そんな地域を実現するため、こども・若者・子育て世帯などに積極的に投資します。

(1)子育て安心県！ どこよりも子どもを産み、育てやすい県にします。

- 周産期医療体制や休日・夜間の小児救急センター、小児救急電話相談などを充実します。
- 不妊治療の支援を強化します。相談体制を充実するとともに、不妊治療休暇など仕事と両立できる環境づくり、男性不妊の理解促進などを進めます。
- 保育所や放課後児童クラブの待機児童を早期に解消します。保育士や児童支援員の賃金・休暇・就業時間等の課題を検証し、処遇改善につなげるプログラムを実施します。また、病児保育や一時預かり等を充実します。
- 増加している発達障害児の保育所等への受入れを支援するため、県独自助成やスタッフ研修会の開催を行います。
- コロナ禍でも安心して子育てができるよう、LINE など SNS による相談体制の充実のほか、感染症対策の強化等による親子イベントに参加しやすい環境づくりを支援します。
- 将来に最も影響を与えると言われる幼児教育を充実します。幼稚園・こども園・保育所の質の向上への支援や、保幼小の連携に取り組みます。

- 家庭で育児を行う方の負担を軽減します。一時預かりなど子育て支援サービスを気軽に利用できる環境をつくとともに、家事・育児支援の意向をもつ地域住民とを結びつけるマッチングサイトの構築等も検討します。

(2)学びの充実！新しい時代に対応した学びの環境づくりを加速します。

- 「トライやる・ウィーク」など各種の体験教育は、引き続き兵庫の教育の特長として重視します。兵庫を誇りに思い、好きになるふるさと教育を充実します。
- ICT を活用した教育を充実します。オンラインによる国内外の学校との交流授業を拡大します。
- 民間人材を積極的に活用します。英語教育やプログラミング教育等に、専門性をもった民間人材を活用するとともに、学校の部活動への地域人材の参画を促進していきます。
- 30 人学級の実現を目指し、具体的な検討を進めます。
- 県立高校におけるトイレの洋式化・乾床化や体育館の冷房設備設置を強力に推進します。
- 特別支援学校の狭隘化対策を進めます。また、放課後デイサービスの送迎などで混雑する駐車場の安全性・利便性を向上させます。
- 建学以来の特色ある教育を推進する私立学校に対し、国際化など教育環境の整備や保護者負担の軽減に向けた支援を引き続き実施します。
- LINE 等による相談体制の充実、スクールカウンセラーの配置、スクールロイヤーなど専門家から成る第三者委員会の設置等により、いじめや不登校の未然防止や対策、教員への支援等を行います。
- 不登校や心理的事情で教室に入れない生徒の学習支援策として、教室後方にウェブカメラを設置し、授業風景をオンラインで自宅に配信する仕組みを導入します。
- 学生を取り巻く様々な課題を県政に反映させるため、県内大学生などから構成する「学生未来会議(仮称)」を創設します。

(3)子どもを守る！すべての子どもを大切に育てる社会をつくります。

- **児童虐待の早期発見・早期対応**に向け、**こども家庭センターと警察の連携**や**一時保護機能を強化**します。また、**養育上のリスクがある家庭を早期に発見**し、働きかける**アウトリーチ型支援**を市町と連携して進めます。
- **里親の養育支援機関の設置**を検討します。里親の募集・研修・相談窓口までを一括して担う里親養育に特化した支援機関を設置。事業の運営は民間に委託し、こども家庭センターの業務負担の軽減を図ります。
- **ヤングケアラー問題の解決**に踏み出します。早期発見(学校、福祉事業者、児童委員等による把握)、支援策(悩み相談、福祉サービスへのつなぎ、学習支援)、社会的認知度の向上、を柱としたプログラムを策定します。

■3. 県内 GDP 成長率 全国トップクラスの実現！

新時代の産業、農林水産、観光の活性化をさらに進めます。

- (1)新たな価値を創出！ 駆動力をもった兵庫経済をつくります。
- (2)観光戦略を再構築！ 近隣府県との観光施策の連携を広げます。
- (3)関西の食の中心地！ 兵庫の農林水産業の力を解き放ちます。

チャレンジしたい人たち、より良いものを届けたい人たち、自慢の魅力を発信したい人たち。

元気あふれる思いが、私のもとに、どこにいても届けられます。県民の皆さんの思いを形にするために、進取の気性をいかした地域産業の展開、関西一の農林水産業のさらなる振興、近隣府県と連携した新たな観光戦略などに全力を注ぎます。

(1)新たな価値を創出！ 駆動力をもった兵庫経済をつくります。

- 中小企業の技術開発や販路開拓等のほか、デジタル化やグリーン化といった新たな投資を力強く支援します。
- 健康・医療、航空・宇宙、環境・エネルギーなどこれまで重視してきた産業分野に加え、国の経済成長戦略に呼応して先端半導体や次世代電池についても技術開発・製造拠点の形成を強力に進めます。
- 企業立地補助制度の充実や規制緩和などをより積極的に進め、県内各地への企業誘致を大幅に促進します。
- 特区制度の活用等により、外国・外資系企業やMICE機能など外資系投資を誘発する仕掛けを検討、実施します。また、オンライン日本語研修など、特定技能など外国人材の受け入れの支援を行います。
- 兵庫発のイノベーション創出に向け、AI等の技術を有するスタートアップを県内外から選定し、著名起業家等による研修プログラムや県内企業等とのマッチング機会の提供を行う「兵庫アクセラレータープログラム(仮称)」を導入します。

- 起業家やフリーランスのビジネス創出を後押しするため、各地のコワーキングスペース間をオンラインで常時接続し、離れた利用者同士がいつでも情報交換できる環境を整備します。ビジネスアイデア発表会等のイベントも企画・実施します。
- 起業を志す若者(小学生～20歳代)を対象とした「ひょうごスタートアップアカデミー(仮称)」を開設します。アカデミー生を対象に、起業のノウハウの提供、アイデアを披露する「スタートアップ甲子園(仮称)」、企業・投資家等とのマッチングなどに取り組みます。
- 地域の経済・雇用だけでなく、文化面でも地域を支えている地場産業の支援を充実します。新商品開発、事業承継等への支援を強化するとともに、越境EC等も活用して販路の拡大を促進します。県立大学を改革し、地域活性化への役割を強化します。
- 商店街の活性化を支えます。チャレンジショップや日替わり店舗の拡大など、若者や女性が商店街で開業する際の支援を強化します。また、飲食店やサービス業のほか、健康増進施設や子育て支援施設など幅広い業種の出店を促進します。
- 社会人の学ぶ意欲に応え、キャリアアップや起業・複業など希望に応じたキャリア形成ができるよう、大学・専門学校や企業等と連携してリカレント教育(学び直し)を充実します。定額で受講し放題の「オンラインサブスク授業」の導入も進めます。

(2)観光戦略を再構築！ 近隣府県との観光施策の連携を広げます。

- 2025年大阪・関西万博に来場する世界の人々を、県内各地の農業や地場産業などの現場に誘う「兵庫フィールドパビリオン(仮称)」を実施し、五国の魅力を世界に発信します。その実現を担う組織として、「2025兵庫フィールドパビリオン・誘客推進室(仮称)」を設置します。
- 2025年大阪万博やIR開業なども見据え、近隣府県との連携を広げる「新たな観光戦略」を策定し、兵庫にもっと観光客を呼び込みます。
- 大阪湾・瀬戸内を舞台とした水上交通観光の需要拡大が見込まれる中、兵庫が素通りされることのないよう、神戸・兵庫津・淡路・姫路などへの誘客を促進する「令和の北前船構想(仮称)」を策定・実行する。
- 早朝・夜間の観光イベントなどへの支援を強化し、地域経済への効果の大き

い宿泊旅行を拡大します。

- 観光施策推進の要となるひょうご観光本部(DMO)は、現在の行政中心の組織ではなく、民間人材を大胆に登用した組織に変革し、新たな観光戦略を打ち出して実行します。
- 芸術文化観光専門職大学をはじめ、学生が観光のアイデアを競う観光甲子園の開催支援等を通じ、兵庫を観光人材の創出拠点にします。
- **障害者が日本一旅行しやすい県**にします。おもてなしの研修、宿泊施設でのLINE チャットのフロントコール、視覚障害者用の街歩き音声ナビ、鉄道駅のバリアフリー化やホーム柵整備など、ソフト・ハード両面で取組を推進します。そのための「ひょうご福祉の観光県条例(仮称)」を制定します。
- 県内各地の**道路ネットワークの整備**を強力に進めます。また、県内の渋滞個所の解消を計画的に推進し、人とモノの交流を広げます。
- **神戸・伊丹空港の利用促進(運用時間や発着回数の緩和、国際化等)**に向け、関西三空港懇談会で議論を進めます。但馬地域の観光振興の拠点であり、災害時の輸送・空路の拠点でもある**但馬空港の活性化**に取り組みます。

(3)関西の食の中心地！兵庫の農林水産業の力を解き放ちます。

- 大消費地に近い立地を活かし、民間スーパー等と連携して本県農水産物の売り場面積を大幅に拡大します。
- 学校給食での「**県産食材倍増作戦**」を展開します。加えて、ECサイトの活用、輸出の促進など、収益拡大のみならずリスクマネジメントにもつながる**出口戦略の多様化支援**を行います。
- **農林水産物のブランド戦略を強化**します。その一つとして、**県農林水産技術総合センターの研究開発機能を強化**し、消費者の嗜好の変化や海外市場のニーズに応じた優良品種の育成等にさらに力を入れます。
- 農作業の省力化や生産性・収益性の向上に向け、地域とメーカー、県・市町が一体となって**地域農業の特性に応じたスマート農業技術の導入**を進めます
- 地元森林組合や関連企業等とのさらなる連携のもと、**安定的な林業サイクルの構築に向けた支援の充実**に取り組むほか、SDGS の定着や万博の開催を捉え、**都市部の建築物への活用など県産木材の利用促進**を図ります。

- 漁業者と連携して**豊かな海づくり**に力を注ぐとともに、**家庭や学校給食での魚食の拡大**を促進します。
- 捕獲体制の確保など**鳥獣害防止の取組**を進めます。また、民間小売事業者や内外のシェフと連携し、**丹波猪や但馬鹿など食材としてのブランド化**に取り組みます。検討します。

■4. 住んでよかった満足度 全国トップクラスの実現！

みんなが誇れる郷土づくりをさらに進めます。

- (1) 『兵庫県、いいね！』。誇りあるまちの魅力アップを進めます。
- (2) だれもがその人らしく！ 社会の絆を深める共生社会をつくります。
- (3) 脱温暖化！ カーボンニュートラルの取組を先導します。

神戸・阪神、播磨、但馬、丹波、淡路、どこに行っても郷土が大好きな皆さまの様子が伝わりました。

そして、もっとその魅力を高めていきたいという願いも感じられました。

県民の皆さまとともに、満足できる住みよいまちづくりを推進していきます。「いいね！兵庫県！」県内外から聞こえてくるような環境を整備していきます。

(1) 『兵庫県、いいね！』。誇りあるまちの魅力アップを進めます。

- 魅力あふれる各地の地域資源や地域文化をさらに活かすプロジェクトチームを若者や女性を中心に県内各地域で編成し、施策につなげます。
- 大阪湾バイエリアで進む万博や大型開発プロジェクトを機に、大規模な集客や、IT、医療、金融など世界的企業・高度人材の誘致をめざす「播磨灘・大阪湾バイエリア再生プラン(仮称)」を策定します。
- 自動運転、デジタルヘルス、街の見守り、バーチャル観光など、県内各地にそれぞれの地域特性に応じた「スマートシティモデル地区」を形成することとし、その実証実験等を推進する組織を民間企業と連携して創設します。
- 兵庫ならではのワーケーションの取組を展開します。県内各地でのワーケーション施設の整備を促進するとともに、利用者に対して季節ごとのおすすめの場所の提案や、ワーケーション先の地元企業や若者との交流機会の設定を行います。
- 都市と多自然地域が近接する兵庫の特性を活かし、都市部に住む人が週末

を多自然地域で過ごす二地域居住を推進します。二地域居住に適した場所を紹介するバンクの設置や、住宅や交通費の定額制(サブスク)サービスの導入を進めます。

- コロナ禍で広がった地方回帰の流れを活かし、多自然地域でのリモートワークの環境整備を進めるほか、アーティストの活動拠点の形成などにも取り組みます。
- 移住を促す情報発信を強化します。その一つとして、地域に関する質問と回答を県民が入力し、移住相談に自動で回答する「移住AIチャットボット」を開発します(穴場のグルメ、生活スタイルなど住民だから知っている情報を発信)。
- 通信環境の悪い箇所の洗い出しや民間通信事業者等への働きかけ等による「県内どこでも Wi-Fi・5G」をめざします。
- 市街化調整区域など土地の用途変更を円滑に進めるための組織体制を強化し、Uターンや民間投資を促進します。
- 買い物や通院などに不自由を感じない環境をつくれます。路線バスやコミュニティバス等の再編を促進するほか、オンデマンドバス、移動販売、共同宅配など様々なサービスの導入を拡大します。
- 「地域スポーツアカデミー(仮称)」を創設します。部活の減少、コーチ不足、スポーツ施設の非効率活用等を解決するため、県民が様々な競技に触れ、トレーニングを積める「地域スポーツアカデミー(仮称)」を兵庫ゆかりのアスリートの参画を得て立ち上げます。IT・5G を活用した過疎地等への遠隔式のスポーツ指導を推進します。
- 県民が芸術に触れ合う機会を増やすため、県立の芸術関連施設をすべて無料開放する「県民プレミアム芸術デー(仮称)」を創設します。
- 県立公園の魅力アップを図ります。レジャーやスポーツ、防災の拠点として、もっと利用してもらえよう、パークPFIなど民間投資も導入します。

(2)だれもがその人らしく！ 社会の絆を深める共生社会をつくれます。

- 女性の管理職を増やすための県内企業の取組を支援するなど、女性の活躍

を推進します。

- シニア世代の就労希望を叶える環境をつくとともに、地域活動、ボランティア、生涯学習、楽農などセカンドライフの活動を支援します。
- 障害者の雇用拡大の支援に加え、工賃の向上や作業がしやすくなるロボットの導入支援など、障害者が働きやすい環境づくりを進めます。
- 障害者福祉施設を着実に整備するほか、人材確保への支援、親亡き後を見据えた支援等に取り組めます。
- 障害者スポーツや障害者芸術文化活動を力強く応援します。
- 多言語により生活情報にアクセスできる環境整備など、在住外国人が安心して日常生活を営める環境を整えます。
- 生活困窮者やひとり親家庭の支援、DVの防止など、困難な状況に置かれている方への支援を充実します。
- 家庭で余った食品を支援の必要な世帯に届けるため、職員や地域住民等が持ち寄るフードドライブの拠点を、県本庁および県内 10 ヶ所の県民局・県民センターに設置します。
- 相談対応から居場所の提供、就労援助まで、ひきこもり状態にある方の就労・社会参加に向けた総合的な支援を行います。
- 「デジタルデバインド解消プロジェクト」を展開します。主に高齢者を対象にした初心者向けパソコン教室やスマホの使い方講座等を、民間企業、NPO、大学生等の協力を得て実施します。

(3)脱温暖化！ カーボンニュートラルの取組を先導します。

- 太陽光や小水力、風力など再生可能エネルギーの導入拡大に向けた支援を充実するとともに、地域エネルギー会社の設立支援等によりエネルギーの地産地消を促進します。
- 初期費用なしで設備を設置する「電力購入契約(PPA)」の手法を用い、県立

高校への太陽光発電設備と蓄電池の設置を進めます(事業者が設備設置費用を負担し、県は事業者から発電電力を購入)。

- 県庁舎で使用するすべての電力を再生可能エネルギーで賄う「RE100」の実現を目指し、導入施設および導入割合の拡大工程を示す計画を策定します。

- 県公用車の次世代自動車への転換を目指し、電気自動車(EV)、燃料電池自動車(FCV)、プラグインハイブリッド車(PHV)等の導入工程を示す計画を策定します。

- 住宅への太陽発電や蓄電池の設置支援、省エネ家電への買い換え促進、プラスチックごみ対策の強化など、省エネや資源循環に配慮したライフスタイルへの転換を後押しします。

- 水素社会を先導する取組を進めます。国際的な水素サプライチェーンの拠点の県内誘致、水素エネルギーの地産地消、水素モビリティの導入促進などの取組を民間事業者と連携して展開します。

- 国のJ-クレジット制度を活用し、森林間伐で創出したCO2吸収量(国の認証)を企業に販売し、その収益を環境保全活動等に活用する取組を導入します。

- 森林、里山、ため池、海を再生・保全する取組を強化し、人と自然が共生する兵庫の豊かな環境を次世代につなげます。

■5. 防災先進県・兵庫であり続ける！

災害に強い県土づくりをさらに進めます。

- (1) 県土をより強く！ 大規模災害に耐えられるインフラや避難体制の整備を最大限進めます。
- (2) まちなか安心！ 地域の犯罪や事故から県民を守る施策を充実します。

「もしも巨大地震がやってきたら」「火災、台風、ゲリラ豪雨と、コロナ以外も怖い」「安全な環境を整えてほしい」

どこよりも安全で安心な環境を作ってほしいとの意見をたくさん伺いました。コロナ禍で財源不足が叫ばれる昨今ですが、安心安全は何よりも重要です。防災先進県・兵庫ならではの災害に強い県土づくりを推進します。

(1) 県土をより強く！ 大規模災害に耐えられるインフラや避難体制の整備を最大限進めます。

- 南海トラフ地震をはじめとする地震・津波に備え、防潮堤や水門の整備、建物の耐震化等を加速します。
- 激甚化する風水害に対応し、治山ダム・砂防えん堤の整備、河川の浚渫対策、ため池の改修等をさらに進めます。特に、県管理河川の浚渫対策を集中的に推進します。
- 老朽化が進む建物、橋、トンネル等について、ICTを活用した点検も導入しながら、適切な維持管理・更新等を進めます。
- 自主防災組織や消防団の体制強化などにより、地域の防災力を高めるとともに、支援の必要な高齢者や障害者が災害から逃げ遅れることのないよう、個々人に応じた避難計画を早期に作成します。
- 産学官関係者が参画する検討チームを立ち上げ、人工知能(AI)を利用して避難所の利用状況や安全な避難経路がリアルタイムで把握できるシステムを開発し、県内全域で活用します。

- 女性、高齢者、障害者、外国人など、誰もが大きなストレスを感じることなく過ごせる避難所づくりを進めます。
- 動物を飼っている方の避難を支援します。ペットを自宅に置き去りにせずにするよう、避難所でのペットの受け入れ環境を整備します。
- 阪神・淡路大震災の経験と教訓を活かします。学校での防災教育を充実するとともに、震災を忘れず語り継ぐ取組を広げます。

(2) まちなか安心！ 地域の犯罪や事故から県民を守る施策を充実します。

- 通学危険地帯や交通安全施設の老朽化など、住民が認知した危険箇所等を声や画像で送り、対策に結びつける「交通安全 LINE110 番(仮称)」を開設します。
- 防犯カメラの設置や見守り活動の充実などにより、犯罪の予防や発生時の迅速な対応を図ります。
- 子どもたちの性犯罪被害対策を強化します。スマホの使い方のルールづくりやワークショップ・スマホサミットのほか、ポップ広告で注意喚起を行うターゲットティング啓発などを進めます。
- 再犯者比率を低下に向け、罪を犯した人に対する更生保護・就労支援などを強化します。
- 通学路の歩車分離など、子どもや高齢者が安心して歩くことのできる道路整備を進めます。
- 自転車専用レーンの整備を進め、安全に自転車が利用できる環境をつくります。
- 高齢ドライバーの事故防止対策を進めるとともに、低速の小型電気自動車など高齢者がより安全に運転できる車の普及に着手します。

■県民とのコミュニケーション力、情報発信力 全国トップクラス！
行財政改革を県民とともに進めます。

- (1)ゼロベースで総点検！ 県民目線に立った行財政改革を断行します。
- (2)組織に多様性を！ 女性や若手、民間人材の登用を積極的に進めます。
- (3)仕事の進め方を変革！ 民間との連携や ICT の活用を加速します。
- (4)県民とのコミュニケーションを強化！ 情報発信力を高め、直接対話を重視します。

「もっと県民に寄り添って」「私たちの話を聞いて」「兵庫県も積極的に情報発信を」

県の重要性が改めて認識される中で、それぞれの行政の力が比較、注目される事態となりました。たくさんの課題を抱える兵庫県だからこそ、県民とのコミュニケーション力、情報発信力 全国トップクラスを目指します。そして、たゆまない行財政改革を実行していきます。

(1) ゼロベースで総点検！ 県民目線に立った行財政改革を断行します。

- コロナ禍に伴って財政支出の拡大と大幅な税収減が見込まれる中であっても、“兵庫を前に進める”施策にしっかりと予算を充当しなければなりません。自らの給与・退職金の削減を行った上で、**県民目線に立った行財政改革を断行**します。
- 就任後ただちにゼロベースでの総点検に着手し、**今年度中に改革内容とスケジュールを示した行財政改革プログラムを策定**します。策定にあたっては、県民をはじめ、議会や市町、関係団体等の意見を丁寧に聞きます。
- **県本庁舎**は、テレワークの浸透などポストコロナ社会の働き方に合ったものとなるよう、**現在の再整備基本構想を見直**します。また、**人や企業が集まり、地域の発展につながる県庁周辺一帯の再整備計画**を公民連携により立案、推進します。
- **県・市町のさらなる協調関係を構築**するとともに、県民サービスの向上や市町行政の充実強化につながるものは**積極的に権限移譲**を進めます
- 兵庫県とのつながりがある企業などからの**企業版ふるさと納税**を積極的に受け入れるとともに、中長期的には、**人口増加・投資促進や企業誘致**などによ

り、歳入増加を推進します。

(2) 組織に多様性を！ 女性や若手、民間人材の登用を積極的に進めます。

- 意思決定過程への女性の参画を拡大します。幹部への積極登用など女性管理職比率を引き上げるとともに、各種審議会等の女性委員比率を高めます。
- 意欲ある若手職員は積極的に幹部に登用します。
- 外部の優れた知見を県の施策に活かすため、複業人材も含めた民間人材の活用を積極的に進めます。
- 職員の能力開発に力を入れます。その一つとして、前例踏襲ではなく、データに基づいた政策立案が当たり前となるよう、データサイエンス研修を強化します。

(3) 仕事の進め方を変革！ 民間との連携や ICT の活用を加速します。

- 知事自身が県内各地のホテル・旅館・古民家等に数日滞在して仕事をする「ワーケーション知事室」を実施します。昼間はオンラインを活用して業務にあたり、時間外には地域の方々と交流することで、地域の課題を知る機会を広げ、「県民ボトムアップ型県政」を目指します。
- 企業・団体・大学等と県との間を一元的につなぐ「ひょうご公民連携プラットフォーム(仮称)」を設置します。ここで集めたニーズやシーズの情報をデータベース化し、マッチングすることで、新たな連携プロジェクトを創出します。
- 地域課題を新しい技術で解決していくため、県民や企業の英知を集めるシビックテック事業(*)を導入します。
*事業の流れ：①課題募集→②課題解決のアイデア募集→③作り手(アプリ開発者等)の募集→④マッチング
- 県庁のデジタル化を大幅に進めます。押印・書面規制等を最大限撤廃した上で、行政手続・サービスのデジタル化を進めます。テレワークやオンライン会議の積極活用など県庁のワークスタイルを変革します。

(4) 県民とのコミュニケーションを強化！ 情報発信力を高め、直接対話を重視します。

- **知事自らが積極的に情報発信**します。メディア出演による発信とともに、SNSの最大限の活用も進めます。
- 兵庫の魅力や特産品等を知事自身が PR する**トップセールスをエネルギーギッシュに展開**します。
- リアルコミュニケーションと同レベルで重要となるネットコミュニケーションを強化するため、**SNSでの情報発信に特化した戦略チーム**を民間活力を活かして創設します。
- 形式的な意見交換会ではなく、**知事が県内各地に出向き、県民や市町、団体、企業等と真摯に意見交換**を行い、県政に反映させます。